



学校だより 10月

令和元年9月26日 横浜市立芹が谷南小学校

エールを送る

学校長 高木 篤子

2020 東京五輪代表選考レース「マラソングランドチャンピオンシップ」(MGC)をテレビで観戦していたときのこと。2位の女子選手が40km付近で上り坂走っているとき、沿道からたくさんの声援がとぶと、きつい状況の中でもその瞬間、選手が笑顔になったように見えました。その姿に、解説者は「応援って大事だなあ。」「応援する方も嬉しくなりますね。」と話されていました。

皆さんは、誰かに応援してもらって勇気が出た体験はありますか。また、誰かを応援しながら、自分自身が元気をもらった体験はありますか。振り返ってみて、応援という行為により、応援される方と応援する方、双方ともにパワーを得るものなのだと改めて感じました。

本校の運動会「芹南ピック」を盛り上げるために、3年生～6年生の応援団員となった児童は、毎日休み時間に練習を重ねています。全校応援集会でも、熱い声や応援歌が太鼓のリズムに合わせて響いています。エール交換のとき、低学年の児童は、「何で赤組なのに、フレーフレー白組って言うのかな。」と不思議そうな様子でした。自分も子どもの頃、同じように思ったかもしれません。よい相手がいるからがんばれること、相手を応援する広い心をもつことも大切ということをお話しました。スローガン「協力して太陽のように輝け スマイル全開芹南ピック 2019 令和元年」を胸に、子どもたち相互でエールを送り合って、応援される子も、応援する子も、全力で臨み、笑顔を輝かせてほしいと思います。

そこで、今年度、応援団長として全校をリードする6年生二人の意気込みをご紹介します。

ぼくは、3年生から応援団をずっとやってきました。そのときから、応援団長になりたいと思っていました。

応援団長になれたので、声も出せて、みんなを引っ張る団長として、赤組を優勝にみちびきたいです。

6年 赤組団長

今年最後の運動会で応援団長になったので、芹南ピックを楽しくもり上げられるように、声を出していきたいです。3年生からやっている応援団で、みんなのことをリードできるように、150%の声を出していきたいです。

6年 白組団長

まもなく「芹南ピック」本番を迎えます。当日は、校庭にたくさんの声援が響くことでしょう。温かい応援を励みにして子どもたちがのびのびと演技や競技で力を発揮するとともに、応援してくださる皆様の心に一人一人のがんばりが届くことを願っています。

